

Q3

コンプライアンスはどうしてそんなに重要なのですか？

A3

排出者責任が重くなっているため、顧客満足に直結するからです。

営業編の「アドバイザー」

黒崎 由行氏 代表取締役社長

環境ワークス

Company Profile ● 本社：栃木県宇都宮市。1994年設立。国際レベルの包括的な環境コンプライアンス研修を提供。代表の黒崎氏は大手化学会社で10年間環境安全衛生管理業務に携わったのち33歳で独立。ISO14001・OHSAS18001の審査やコンサルティングを通して様々な環境安全衛生問題と対峙してきた日本でもトップレベルの環境安全コンサルタント。同氏が月2回発行する環境安全衛生情報のオンライン情報マガジン「ESHエキスパート」は、企業担当者やISO審査員、コンサルタントなどのバイブルとして愛読されている。環境マネジメントシステム主任審査員、環境カウンセラー、公害防止管理者（大気、水質等）、エネルギー管理士、GHG(温室効果ガス)バリデーター・ベリファイアー研修修了（経済産業省）など環境関連の資格のほか、労働安全・衛生コンサルタントなど関連の資格も多数保有。



5月23日に行われたエマスタッフジャパンの第5回ESJマネージャー研修で講演する黒崎氏

コンプライアンスは直訳すると「法令順守」です。近年、大企業による偽装請負やサービス残業、食肉偽装事件など、ビジネスにおけるコンプライアンス違反に対する責任追求は厳しさを増しています。

廃棄物処理に関する「コンプライアンス」の重要性は大きく二つの側面が考えられます。

一つはもちろん業者自身の問題です。2007年度の処理業者の許可取り消し件数は484件にも及び、処理業者にとって廃棄物処理法の違反は最も大きな経営リスクです。

以前、マニフェスト伝票の整理を任されている事務員がその法的根拠

を全く知らされていない実態を日に驚いたことがあります。経営者がコンプライアンスと唱えても実務に携わる方々がその意味を理解していなければ意味がなく、職場の隅々まで浸透しているかどうか重要です。しかし、多くの企業では末端の従業員にまでコンプライアンスの重要性が浸透しているとは言いがたいのが現状です。コンプライアンスとは法令順守にとどまらず企業理念や社会理念の順守をも包含するものですが、まずは業務における最低限の法的根拠を知ることが不可欠です。そしてそれが業務に根付いていることが重要です。

もう一つの側面は、排出事業者からみたコンプライアンスです。ご存知の通り、多くの排出事業者は、廃棄物の処理を重大な経営リスクとしてとらえ、視察や監査に注力しています。廃棄物処理法においても排出事業者責任は今後ますます強化されるものと考えられています。

処理業者にとっては煩わしい排出事業者による視察や監査ですが、しかし、これは見方を変えれば大きなチャンスともいえます。従業員が適正な教育を受け、コンプライアンスが浸透している現場を自分の目で見れば、排出事業者は安心し、処理業者に対して信頼を深めるでしょう。このことはビジネス上の大きな強みとなるのです。

現在、先進的な処理業者では処理場のショールーム化を進めています。場内の整理整頓、挨拶の徹底はもちろん、案内標識・掲示物の整備や案内員の訓練を進め、見学後にはアンケートを依頼するなど、チャンスを活かそうと取り組んでいます。

とかく外からはわかりにくいと言われる廃棄物処理業界。だからこそ、顧客は「透明性」を求めており、管理手順、教育などのマネジメントを積極的に示すことは顧客の安心を獲得する大きなアピールとなるのです。コンプライアンスは顧客の最大の関心事であることを忘れてはなりません。